

令和6年度

事業報告書



社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会

理念

尾鷲市のだれもが
安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

I	総務・地域福祉係	1
II	生活支援係	
	おわせ生活サポートセンター クローバー	17
III	高齢者相談係	
	地域包括支援センター	31
IV	障がい相談係	
	紀北地域障がい者総合相談支援センター結	37
V	居宅介護支援係	
	居宅介護支援事業所	45
VI	介護サービス係	
	訪問介護事業所	48
	訪問入浴事業所	51
	尾鷲社協デイサービスセンターいきいき	52
VII	輪内高齢者サービスセンター	54

I 総務・地域福祉係

総務・地域福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 令和6年6月6日 出席者 11名

- 議題
- ・ 令和5年度事業報告について
 - ・ 令和5年度決算について
 - ・ 令和6年度【第1回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 評議員選任候補者の推薦について
 - ・ 評議員選任・解任委員会の招集について
 - ・ 令和6年度定時評議員会の招集について

その他・社会福祉充実残額について

第2回 令和7年3月13日 出席者 10名

- 議題
- ・ 令和6年度【第2回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 令和7年度事業計画について
 - ・ 令和7年度【当初予算】資金収支予算について
 - ・ 苦情解決第三者委員会委員の選任について
 - ・ 評議員選任候補者の推薦について
 - ・ 評議員選任・解任委員会の招集について
 - ・ 令和6年度第2回評議員会の招集について

その他・次回の理事会について

(2) 評議員会

第1回 令和6年6月21日 出席者 27名

- 議題
- ・ 令和5年度事業報告について
 - ・ 令和5年度決算について
 - ・ 令和6年度【第1回補正予算】資金収支予算について

その他・社会福祉充実残額について

第2回 令和7年3月21日 出席者23名

- 議題 ・ 令和6年度【第2回補正予算】資金収支予算について
・ 令和7年度事業計画について
・ 令和7年度【当初予算】資金収支予算について
・ 理事の選任について
・ 監事の選任について

その他・次回の評議員会について

(3) 監事監査

- ① 令和6年5月15日・16日 監事2名
・ 令和5年度の事業及び決算についての監査
② 令和6年11月27日 監事2名
・ 令和6年4月～令和6年9月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ① 令和7年2月4日 財政援助団体等監査(尾鷲市監査委員事務局)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の強化

令和7年度職員体制の確保に向け、採用試験を実施

- ・ 採用者数 正規職員 2名
嘱託職員 1名

(令和6年度退職者 正規職員5名、嘱託職員1名)

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

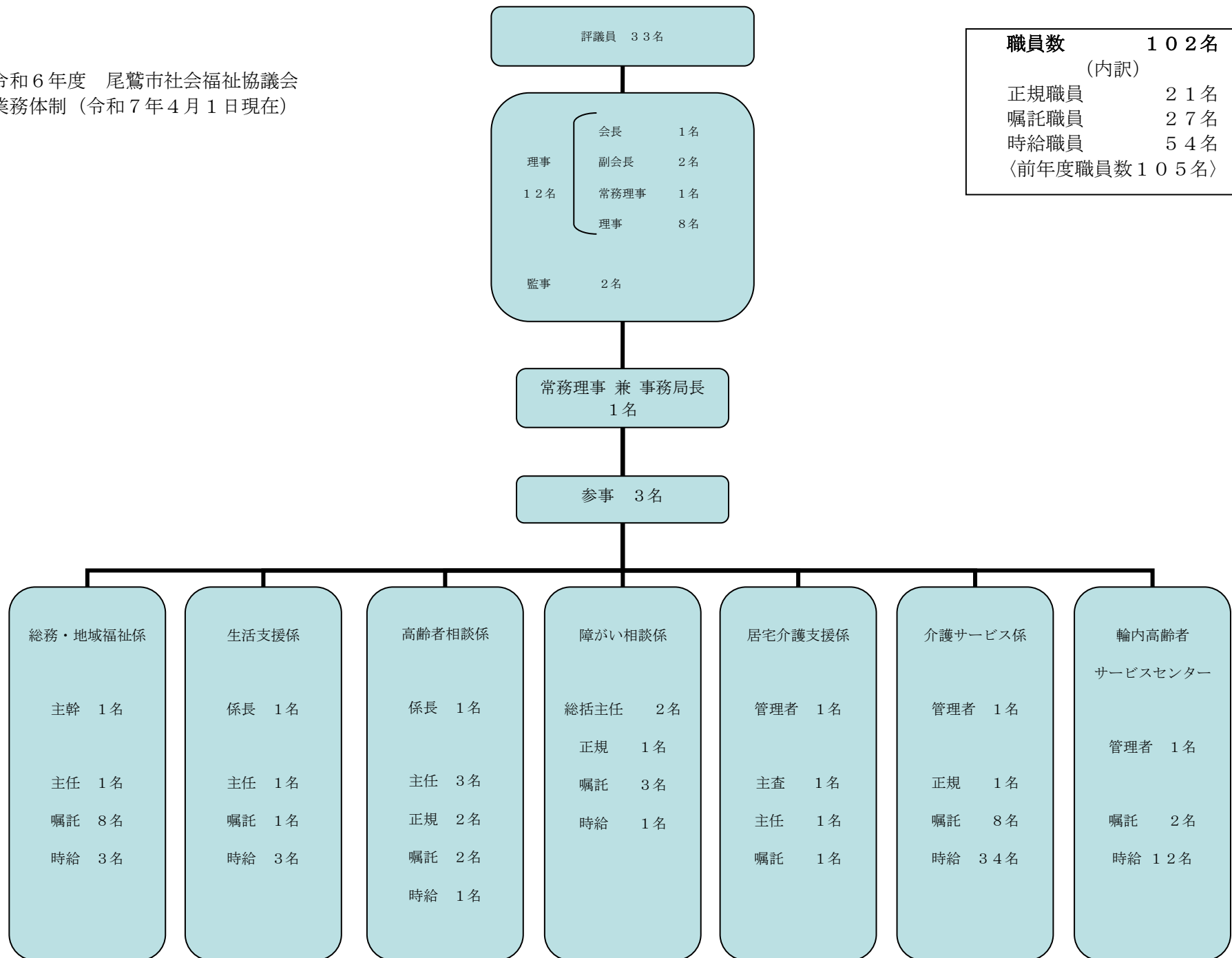
資格取得の状況	社会福祉士	4名
	介護福祉士	2名

(3) 活動基盤の改善・充実

会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により、高まる会計・税務の専門性に対応するため、引き続き税理士法人と顧問契約を締結し、適正な運営に努めた。

令和6年度 尾鷲市社会福祉協議会
業務体制（令和7年4月1日現在）



3. 地域福祉財源の確保

(1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保

(2) 自主財源の確保

① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】一般預託	9 件	442,989 円
指定預託	0 件	0 円
合 計	6 件	442,989 円
※前年度合計	6 件	367,798 円

② 社協賛助会費制度の運営

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、民生委員児童委員、地区福祉委員会などの協力、連携により賛助会費の募集を行い、地域福祉活動の財源確保に努めた。

(単位：円／件)

	令和 6 年度		令和 5 年度	
	金額	件数	金額	件数
賛助会員	780,000	723	926,000	865
特別会員	305,000	32	265,000	32
計	1,085,000	755	1,191,000	897

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに、社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

① 老人クラブ連合会活動の支援

15 クラブ・会員数 586 名

② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

9 講座 1,215 名（前年度 10 講座 1,478 名）

(2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式（尾鷲市との共催）

開催日：令和 6 年 6 月 2 日

場 所：尾鷲市民文化会館

参列者：100 名

5. 苦情解決事業

苦情に対して社会性・客観性を確保するため第三者委員会を設置し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を行うため、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制

苦情解決責任者 事務局長

苦情受付担当者 総務・福祉係長

第三者委員 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情件数

(単位：件)

苦情の内容	令和6年度	令和5年度
ケアの内容に関わる事項	0	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動・交通マナー・施設管理)	0	0
本会以外への苦情等	0	0
合計	0	0

6. マイクロバス貸出事業

マイクロバスを貸出して、各種団体の活動支援を行った。

利用団体：11団体（前年度 15団体）

利用回数：延べ23回（前年度 延べ33回）



7. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこやーやにゃんを用いて尾鷲の観光PRをするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内外のイベント出演。

出演回数：0回（前年度0回）

(2) 貸出

着ぐるみの貸出しを行った。貸出回数：9回（前年度5回）

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。件数：7 件（前年度 6 件）

8. 地域福祉活動の推進

(1) 地域福祉活動支援事業

① 地区福祉委員会の活動基盤強化

ア. 活動相談

イ. 地域課題解決に向けた支援

ウ. 活動の周知啓発

エ. 助成事業（基本助成、活動助成、新規結成助成）

✧ 基本助成（地区福祉委員会の運営費および活動費として）

助成数・助成額：12 団体 240,000 円

✧ 活動助成（各地区独自の活動費として）

助成数・助成額：10 団体 325,000 円

② ふれあいサロン活動の推進

ア. おしゃべりほのぼのサロン事業

高齢者の生きがいをづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを職員とボランティアの協力で実施した。昨年度試験的に 2 回開催した三木里地区は、今年度より本格的に開始した。

のべ参加者数

（単位：人）

	尾鷲	九鬼	早田	三木里	合計
参加人数	118	27	38	75	258
前年度	41	35	46	15	137

イ. 百寿雀サロン事業（共同募金配分事業）

百寿雀を活用したふれあいサロンづくりを模索するため、体験会を実施した。

参加人数：福祉保健センター	のべ 305 人（24 回）
矢浜コミュニティセンター	のべ 250 人（28 回）
三木里コミュニティセンター	のべ 176 人（19 回）
九鬼コミュニティセンター	のべ 286 人（28 回）
宮之上小学校	のべ 179 人（14 回）
林町会館	のべ 32 人（5 回）

計 1,228 人（118 回）
前年度 1,026 人（94 回）



ウ. 助成事業（ふれあいサロン助成）

ふれあいサロン活動に取り組む団体に対して助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：195,000 円（6 団体）

活動実績

実施団体	回数	のべ参加人数
梶賀地区福祉委員会	6	83
曾根地区福祉委員会	9	127
天満地区福祉委員会	2	74
古江地区福祉委員会	1	29
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	16	300
笑って歌ってお楽しみ会	11	193
合計	45	806



③ ふれあい・見守り訪問活動の推進

ア. 助成事業（あったかふれあい訪問活動助成、友愛活動助成）

◇ あったかふれあい訪問活動助成

地区福祉委員会が行うふれあい訪問活動に対し、助成金による活動支援を行い、住民主体による福祉ニーズの発見を促進した。

助成額：861,500 円（12 地区）

活動実績

地区福祉委員会	回数	のべ訪問件数
三木浦地区福祉委員会	2	220
賀田地区福祉委員会	2	198
矢浜地区福祉委員会	2	248
三木里地区福祉委員会	2	262
古江地区福祉委員会	4	431
坂場地区福祉委員会	4	523
曾根地区福祉委員会	3	145
梶賀地区福祉委員会	3	150

九鬼地区福祉委員会	1	138
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	3	270
なみき地区福祉委員会	3	718
天満地区福祉委員会	3	177
計	32	3,480

◇ 友愛活動助成

尾鷲市老人クラブ連合会が行う友愛活動に対し、助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：105,000 円

活動実績

取り組みクラブ数	のべ訪問件数
15 クラブ	448 名

④ 子育て支援事業の推進

ア. 子育て応援イベントの開催（共同募金配分事業）

子育てめっけもん広場のオープニングイベントとして『あそびの広場』を開催し、エアジャンプ、制作（6月は風車、12月はクリスマス飾り）などを行った。

会 場 尾鷲市福祉保健センター1階ロビー

開催日 第1回 令和6年6月15日（土） 参加者 102名
第2回 令和6年12月14日（土） 参加者 101名



イ. 子育てグッズのリサイクル（共同募金配分事業）

◇ 子育て用品「無料レンタル」

不要となったチャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドの寄付を受け、必要とする方に無料で貸し出した。

利用件数：56件（前年度 39件）

◇ 子育て用品の譲り合い仲介

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド以外の不要子育て用品について、譲り合いの仲介を行った。

仲介件数：4件（前年度 2件）

☆ 子育てめっけもん広場

不要となった子育て用品の譲り合いを支援するため、交換会「子育てめっけもん広場」を開催した。

第1回 令和6年6月15日（土）～24日（月）

提供者 40名

来場者 102+110（イベント）＝212名

第2回 令和6年12月14日（土）～23日（月）

提供者 40名

来場者 101+122（イベント）＝223名



⑤ 療育支援事業の推進

ア. 療育教室（すまいる教室）の開催

☆ 1時間30分～45分の教室（サーキット、リトミック、課題、視聴覚教材等）を実施し、障がい児や発達の子どものグループ療育支援を行った

☆ 保育士を中心に、言語療法士など専門職による専門療育

☆ 未就学児は親子参加を基本とし、保護者の孤立を防ぐとともに相談や交流の機会とした

参加状況

（単位：人）

区分	実人数	のべ人数
尾鷲市	21	339
紀北町	12	103
計	33	442

（2）ボランティア・市民活動センター事業

① ボランティア団体の活動支援

ア. 活動相談：17件

イ. 地域課題解決に向けた支援

☆ 住民参加型生活応援事業「助っと」

令和4年度に立ち上げた、住民同士の助け合いのしくみ「助っと」を継続実施。買い物支援、ごみ出し支援などを実施した（共同募金配分事業）。

3月31日現在

会員登録（単位：人）	支援会員	17
	利用会員	35
実施状況（単位：回）	買い物代行支援	87
	ごみ出し支援	380

◇ 輪内買い物支援「いこらい」実証実験

住民ボランティアと協働した買い物支援を、曾根町、梶賀町、古江町、九鬼町にて実施。

3月31日現在（単位：人）

利用者数 （地区別）	曾根町	8
	梶賀町	10
	古江町	16
	九鬼町	12
	計	46
実施状況 （年間）	曾根町・梶賀町コース	106
	古江町コース	98
	九鬼町コース	77
	計	281



ウ. 助成事業（ボランティア活動助成）

登録ボランティア団体を対象に、ボランティア・市民活動の促進及び充実を図ることを目的として助成金による支援を行った。

助成額：200,333円（11団体）

活動実績

助成団体	内容
声のボランティアやまびこの会	福祉・医療・保険の増進
尾鷲手話サークルかたつむり	福祉・医療・保険の増進
おわせ食の会	シニアカフェ、食の啓発
みえ防災コーディネーターおわせ	環境保全活動
OWASE ラフター（笑い）ヨガクラブ	学術・文化・芸術・スポーツ
オカリナささゆり	学術・文化・芸術・スポーツ
ウェークエンドの会	障がい者の社会参加の場づくり

スポレクおわせ	社会参加促進・イベント講師
天狗倉山まるごとプロジェクト	世代間交流、環境保全
祐結会	学術・文化・芸術・スポーツ
尾鷲藪漕隊	環境の保全・子どもの健全育成

② ボランティア活動保険の加入補助

ア. 助成事業（ボランティア活動保険加入助成）

登録ボランティアを対象にボランティア活動保険の加入促進を目的として助成金による支援を行った。

助成額：35,500 円（355 名）

加入数：452 名

③ 災害ボランティア育成（共同募金配分事業）

ア. 災害ボランティア講座

災害ボランティアについての関心の維持と、意義の再確認のためのきっかけづくりとして、災害ボランティア講座を開催した。

開催日：令和7年3月8日（土）

会 場：尾鷲市福祉保健センター4階 多目的ホール

内 容：①『災害ボランティアセンターの役割について』

②『災害ボランティア意見交換会』

講 師：尾鷲市社会福祉協議会職員

参加者：23 名



④ 災害ボランティアセンターの基盤強化

ア. 災害ボランティアセンター関係者会議

東紀州ブロック社協広域連携協議会で、災害時の広域連携を想定した初動期における社協間の連携を想定したマニュアルの確認と見直し、東紀州内の災害ボランティアに関わる情報共有を行った。

開催日：令和6年9月2日（月）

会 場：熊野市保健福祉センター

⑤ 福祉教育の推進

ア. 福祉教育プログラムの提供

福祉協力校に対して、福祉教育プログラムを作成し、様々な授業で活用した。



イ. 福祉作品コンクールの募集

福祉教育の一環として、小・中学生を対象に、福祉をテーマにした『標語』とその標語に込めた『笑顔』を募集し、入賞作品を表彰した（共同募金配分事業）。

応募総数 405 点

表彰者	小学校低学年の部	3 名	小学校中学年の部	3 名
	小学校高学年の部	3 名	中学校の部	3 名

⑥ 助成金による福祉教育の推進

ア. 助成事業（福祉教育助成金）

福祉協力校〈小学校 5 校、中学校 2 校、高校 1 校、特別支援学校 1 校〉を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った（共同募金配分事業）。

助成金額 7 校 280,131 円

活動実績

福祉協力校	内容
尾鷲小学校	環境美化
宮之上小学校	福祉の授業、環境美化
矢浜小学校	体験学習、地域交流、環境学習
向井小学校	環境美化、施設慰問、
賀田小学校	環境美化、地域交流
尾鷲中学校	—
輪内中学校	地域交流、環境整備、人権教育
尾鷲高校	—
くろしお学園おわせ分校	環境美化・清掃、地域交流

(3) 生活支援体制整備事業（尾鷲市からの受託事業）

① 生活支援コーディネーターの配置（2 名）

ア. 活動内容

（単位：回）

活動内容	件数
アセスメント（情報収集・課題分析）	14
相談対応	47
連絡・調整	61

支援活動のコーディネート	22
地域での協議	6
関係機関との協議	7
周知・啓発	4
人材育成	5
研修・視察	5
その他	8
のべ活動回数	179

② 地域における協議体制の整備

市内を生活圏の層に分け、それぞれの階層で地域の生活支援を協議する場を整備した。

ア. わごころ会議の運営（第二層協議体）

日常生活圏域での協議体として、わごころ会議を開催し、具体的な生活支援活動について協議した。

内 容：『移動支援のしくみづくりについて考える』

開催日：令和7年3月24日（月）



イ. 地域福祉懇談会の運営（第三層協議体）

より身近な地域で話し合う協議体として、地区懇談会を開催し、具体的な生活支援活動について協議した。

（九鬼、三木浦、古江、賀田、曾根、梶賀）

③ 地域の支え合い活動に関する周知・啓発

地域活動の紹介通信「わごころ通信」の発行（10月・3月）

全戸を対象に地域における支え合い活動の見える化を目的として、地域活動を紹介する「わごころ通信」を発行した。

第11号：『百寿雀』サロンの紹介、健康寿命と通いの場について
『助っと』支援会員の活動紹介

第12号：「わがらの町の暮らしささえ合い塾」の内容紹介、
『助っと』新規会員登録募集

④ 生活支援サポーターの養成

生活支援サポーター養成講座「わがらの町の暮らしささえ合い塾」を開催し、住民の支え合い意識の向上を図るとともに、地域における支え合い活動のきっかけづくりを行い、延べ50名の参加をいただいた。

- 第1回 開催日：令和7年1月14日（火）
内 容：公的支援の隙間とささえ合い
講 師：尾鷲市地域包括支援センター職員
参加者：17名
- 第2回 開催日：令和7年1月21日（火）
内 容：尾鷲市内におけるささえ合い活動を紹介！
講 師：尾鷲市社会福祉協議会職員
参加者：19名
- 第3回 開催日：令和7年1月28日（火）
内 容：移動支援の必要性とささえ合い
講 師：尾鷲市社会福祉協議会職員
参加者：14名

⑤ 移動支援の担い手の養成

移動支援の担い手育成を目的に、福祉有償運送運転者及びセダン等運転者講習

開催日：令和7年3月1日（土）・2日（日）

会 場：尾鷲市中央公民館

内 容：福祉有償運送運転者・セダン等運転者講習（講義＋実技）

講 師：全国移動サービスネットワーク認定講師

参加者：14名



（4）援護事業

① ひとり親世帯就学応援事業

ひとり親家庭の小学校卒業児童に対し、中学校への就学応援品として図書カードを贈呈した（共同募金配分事業）

対象児童 21名（前年度 22名）

② 災害義援金・海外救援金の募集

（単位：円）

義援金・救援金	寄付額
令和6年能登半島地震災害義援金	392,656
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	190,736
令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	180
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	140
ウクライナ人道危機救援金	1,603
合 計	585,315

※日本赤十字社を通じて寄付

③ 災害時援護事業

市内で発生した火災の被災世帯に対し、緊急セットと毛布、タオルケット、見舞金を配布した。

被災件数：3 件（3 世帯）

配布物：緊急セット 3 個 毛布 3 枚 タオルケット 4 枚 見舞金

(5) 広報啓発事業

① 尾鷲市社会福祉大会（尾鷲市との共催）

多年にわたり社会福祉事業・社会福祉活動に功績のあった方々を顕彰するとともに、社会福祉のさらなる充実を目指すことを目的に、尾鷲市社会福祉大会を開催した。

開催日：令和 6 年 11 月 24 日（日）

場 所：尾鷲市中央公民館

内 容：第一部 顕彰

尾鷲市長表彰 28 名

尾鷲市社会福祉協議会会長表彰 7 名

第二部 福祉作品コンクール表彰 12 名

実践報告『能登半島地震災害における尾鷲社協
支援職員派遣についての報告』

尾鷲市社会福祉協議会職員



② 広報紙「社協だより」の発行

年 4 回（6 月・7 月・10 月・3 月）広報紙「おわせ社協」を発行した。

③ ホームページ、Twitter、Facebook での情報発信

ホームページ、Twitter、Facebook を活用し、情報発信を行った。

(6) 募金活動支援

① 赤い羽根共同募金（三重県共同募金会）への協力

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者と共に、募金活動に協力した。

一般募金（運動期間：令和 6 年 10 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）

募金実績

(単位：円)

	令和 6 年度	令和 5 年度	比較
目標額	2, 323, 300	2, 450, 700	▲127, 400
実績額	1, 951, 272	1, 991, 701	▲40, 429
達成率	83. 9%	81. 2%	2. 7%

募金種別による内訳

(単位：円・件)

	令和 6 年度		令和 5 年度		比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別	912, 400	2, 489	953, 369	2, 505	▲40, 969	▲16
法人	597, 676	99	612, 664	101	▲14, 988	▲2
街頭	75, 450	4	74, 732	5	718	▲1
学校	109, 060	9	66, 546	8	42, 514	1
職域	127, 604	25	155, 465	27	▲27, 861	▲2
イベント	42, 070	5	26, 504	6	15, 566	▲1
個人	10, 700	7	16, 500	3	▲5, 800	▲4
その他	76, 312	31	85, 921	34	▲9, 609	▲3
計	1, 951, 272	2, 669	1, 991, 701	2, 689	▲40, 429	▲20

② 日赤募金（日本赤十字社三重県支部）への協力

日赤奉仕団（尾鷲市婦人の会連絡協議会）、自治会等の協力を得て、募金運動に協力した。

社資増強運動期間：令和 6 年 5 月 1 日～5 月 31 日

募金実績

(単位：円)

	令和 6 年度	令和 5 年度	比較
目標額	2, 455, 000 円	2, 533, 000 円	▲78, 000 円
実績額	1, 608, 506 円	1, 656, 534 円	▲48, 028 円
達成率	65. 5%	65. 3%	0. 2%

Ⅱ 生活支援係

おわせ生活サポートセンター クローバー

1. 総合相談

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

当会の理念である「だれもが安心して生活できるまちづくりを進めていく」を基に、相談者の悩みに寄り添い、相談に対応した。

食料支援、就労支援、家計改善支援、金銭貸付等あらゆる支援策を講じるとともに、必要に応じて他機関と連携し、困りごとの早期解決・早期脱却に向け、課題を解決した。

また、判断能力が不十分な方の権利擁護支援としては、他機関と連携し、本人の状態や本人を取り巻く環境などの情報を把握し、日常生活自立支援事業、または法定後見制度の利用を検討し、支援を進めた。

(ア) 相談実績

相談件数：56 件

(単位：件)

属性	令和6年度	令和5年度
困窮者	40	36
うち高齢者	(18)	(15)
うち障がい者	(15)	(8)
高齢者	10	10
障がい者	4	2
その他	2	2
計	56	50

(相談内容に重複あり)

(単位：件)

相談内容	令和6年度	令和5年度
自立生活に関する事	9	13
家計管理に関する事	8	13
貸付に関する事	23	16
借金・滞納に関する事	4	5
成年後見制度に関する事	3	5
日常生活自立支援事業の利用	9	11
消費生活に関する事	0	0
虐待・権利侵害に関する事	0	0
生活支援に関する事	3	6
地域・人間関係に関する事	1	5
仕事に関する事	11	13
ひきこもりに関する事	2	4
住まいに関する事	1	0
その他	8	8
計	82	99

2. 生活再生事業

(1) 生活再生相談

① 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

相談者の悩みに寄り添い、どのような方法が必要か一緒に考え、提案し、生活困窮状態から脱却するための計画を立て改善を進めた。必要に応じて病院や市役所、年金事務所、ハローワークなどに同行し支援した。高齢者や障がい者の専門分野の課題については、他機関と連携し支援した。

その結果、できるだけ早期に安定した生活に改善することができた。

一昨年度から継続して、ひきこもり家族支援（こもりカフェ）を行った。

その結果、少しずつ参加者間で信頼と共感が広がり、こもりカフェ以外での交流が見られた。参加された家族はここでしか共感してもらえない悩みを話せる喜び、共感してもらえる喜びがあり、レスパイト（休息）の場となっている。毎回の参加を楽しみにしてくれている。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数	56	54
実利用人数	15	10
プラン策定件数	18	16
のべ対応 (支援申込み前含む)	931	680

(単位：件)

対応内容	令和 6 年度	令和 5 年度
電話相談	388	273
訪問・同行支援	221	137
面談	149	147
所内会議	42	46
支援調整会議(プラン策定・評価)	40	39
その他関係機関との会議	89	30
関係機関との照会・協議	1	5
その他	1	3
計	931	680

(イ) 支援体制の構築

ア 周知啓発活動

・相談窓口の案内チラシ配布および設置

福祉保健課、福祉保健センター、税務課、市民サービス課、水道部
各コミュニティセンター、尾鷲総合病院、紀北信用金庫、百五銀行、
三十三銀行、郵便局、伊勢農協、三重外湾漁協

イ 事業所・団体等への事業説明と周知

7 月 民生委員児童委員会定例会

(主催：尾鷲市民生委員児童委員協議会)

2 月 ケアマネジャー研修

(主催：尾鷲市地域包括支援センター)

ウ 関係機関との会議

・ 尾鷲公共職業安定所との連絡会議

- ・ 東紀州地域依存症ネットワーク会議
（主催：三重県こころの健康センター）
- ・ 三重県ひきこもり支援ネットワーク会議
（主催：三重県こころの健康センター）

エ 尾鷲市福祉保健課自立支援係との支援調整会議（開催回数：12回）

（ウ）ひきこもり家族支援 こもりカフェの開催

家族教室の開催9回（4月～3月）

参加者：3家族 延べ29人

他機関：尾鷲市福祉保健課自立支援係、健康づくり係

尾鷲保健所、紀北地域障がい者総合相談支援センター結

（エ）ひきこもり家族教室（主催：三重県こころの健康センター）

家族教室の開催2回（8月、10月）

参加者：3家族 延べ6人

② 生活困窮者家計改善支援事業（市受託事業）

家計管理に問題がある方を対象に、収支状況の見える化と計画的な家計プランの作成を相談者とともに行った。レシートの保管や家計表のつけ方などははじめは難しそうにしていた利用者也支援者のサポートにより着実に家計管理を行うことができ、支援終了時には自分で家計管理ができるようになり、分析と判断ができるようになった。

また、借金の返済が難しい方1名の自己破産手続きを支援した。負債の免責と今後の生活に向けた家計管理の習得で、家計改善を図ることができた。

（ア）相談対応

（単位：件）

	令和6年度	令和5年度
相談件数	35	34
実利用人数	16	11
プラン策定件数	16	14

(イ) 対象者が抱える課題(支援決定者のみ)

(単位：件)

	令和 6 年度	令和 5 年度
税金の滞納	9	2
医療費の滞納	4	0
公共料金の滞納	8	0
債務（銀行や消費者金融など）	11	6
家計管理の問題	15	9
低所得	13	13
計	60	30

③ アウトリーチ等強化による自立相談支援事業（市受託事業）

生活課題を抱え、相談する相手がいない孤立状態の方や、ひきこもり状態の方、長期無業者など、自宅を訪問し、病院や官公庁への手続きに同行し、本人に寄り添った支援を行った。

その結果、本人との信頼関係を構築することができ、すぐには解決に至らないが、一つずつ課題を解決していくことができた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数	20	20
実利用人数	19	13
のべ対応件数	792	725

(単位：件)

対応内容	令和 6 年度	令和 5 年度
電話相談	374	325
訪問	136	127
面談	101	172
同行支援	92	34
関係機関との協議	89	67
計	792	725

④ 生活困窮者就労準備支援事業（市受託事業）

生活基礎能力、対人能力、社会適応能力等に問題を抱え、雇用による就業が著しく困難な生活困窮者に対し、一般就労を行う前段階の準備として、基礎能力を形成することを目的に支援を行った。必要に応じて、他機関と連携し、支援を進めた。

その結果、当事業を通じて本人の特性や症状を知ることができ、障がい者総合相談支援センター結の協力を得て、病院受診につなげ、障がい者手帳を取得。その後、就労体験を経て、障がい者就労継続支援B型の利用に進めることができた。

（ア）相談対応

（単位：件）

	令和6年度	令和5年度
相談件数	3	9
実利用人数	3	3
プラン策定件数	3	3
のべ対応	104	160

（イ）支援により見られた変化

（単位：件）

見られた変化	令和6年度	令和5年度
就労開始	2	1
福祉サービスの利用	1	1
就職活動開始	2	1
健康状態の改善	1	2
障害者手帳取得	1	1
住まいの確保・安定	1	1
社会参加機会の増加	1	3
生活習慣の改善	0	1
対人関係・家族関係の改善	1	2
自立意欲の向上・改善	1	2
孤立の解消	1	3
精神の安定	1	3
計	13	21

(ウ) 就労体験の実施

受入先	令和 6 年度		令和 5 年度	
	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数
NP0 法人おばら野（優・結）	1 名	14 日	1 名	5 日
計	1 名	14 日	1 名	5 日

(エ) 作業訓練及び講習

ア 農作業訓練（通年）

内容：除草、土づくり、種まき、追肥、害虫対策、水やり、収穫

イ 掃除訓練（通年）

内容：ボランティア室のモップ掛け、掃除機掛け、テーブル拭き

(オ) 対応結果

（単位：件）

	令和 6 年度	令和 5 年度
一般就労	0	0
一般就労（障がい者枠）	0	0
福祉的就労（障がい者就労施設）	1	1
計	1	1

⑤ 被保護者就労支援事業（市受託事業）

生活保護受給者を対象に、就労に向けた相談を行い、就労準備支援事業を利用し事業所見学や就労体験、また短期就労など支援した。

その結果、1 名が障がい者手帳を取得し、障がい者就労継続支援 B 型の利用につながった。また他の 2 名についてはこれまでの就労経験を生かした仕事や、病気・コミュニケーションなど抱えている問題を理解することができ、今後の就労および生活に向けた方向性を見出すことができた。

(ア) 相談対応

（単位：件）

	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数	3	1
実利用人数	3	1
のべ対応	104	55

(イ) 対応結果

(単位：件)

	令和6年度	令和5年度
常勤就労	0	0
パート就労	0	0
派遣就労	0	0
短期就労	4	0
福祉的就労	1	0
計	5	0

ア 関係機関との会議

- ・ 稼働能力判定会議

開催日：毎月開催

出席：市福祉保健課・社協から5名が出席

- ・ 被保護者就労支援打合せ会議

書面により実施

ハローワーク尾鷲、尾鷲市、尾鷲市社会福祉協議会

(2) 生活資金貸付事業

① 生活福祉資金貸付事業(受託事業)

本則の生活福祉資金貸付事業を実施したほか、三重県社会福祉協議会が新型コロナ特例貸付の利用者を対象に実施したアウトリーチ支援事業と協働して対象者のフォローアップを実施し、必要に応じて償還免除や償還猶予申請手続きを支援することで経済的自立をサポートした。

(ア) 令和6年度新規貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和6年度	令和5年度
福祉資金	福祉費(葬祭費)	1	1
	緊急小口資金	1	1
計		2	2

(イ) 令和6年度完済件数

(単位：件)

資金種類		令和6年度	令和5年度
福祉資金	緊急小口資金	1	1
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	10	1
計		11	2

(ウ) 令和6年度償還免除件数

(単位：件)

資金種類		令和6年度	令和5年度
福祉資金	福祉費(住宅資金)	1	0
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	3	3
	総合支援資金	4	3
計		8	6

(エ) 令和6年度末時点貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和6年度	令和5年度
福祉資金	福祉費(葬祭費)	1	1
	福祉費(住宅資金)	0	1
	障がい者自動車 購入費	1	1
	技能習得費	1	1
	緊急小口資金	4	3
教育支援資金		11	11
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	22	35
	総合支援資金	32	36
計		72	89

② 福祉金庫緊急貸付事業

緊急かつ一時的に生活資金が不足し、ライフラインの停止など困難な状況に陥った世帯に対して生活資金を貸し付けた。食料支援事業など他制度も活用して生活機能を維持しつつ、併せて相談援助を行い生活再建に繋げた。

(ア) 令和6年度新規貸付件数・完済件数・償還免除件数

(単位：件)

種類	令和6年度	令和5年度
新規貸付件数	8	3
完済件数	4	0
償還免除件数	0	1

(イ) 令和6年度末時点貸付件数

(単位：件)

償還の状況	令和6年度	令和5年度
年度末時点貸付件数	13	9
定期的に返済している世帯	1	0
不定期であるが返済をしている世帯	5	1
令和6年度全く返済実績のない世帯	7	7

③ 借受人等関係者との関わり強化

日中は就労している借受人等が多く、訪問や架電による連絡は困難であったため、関係機関と情報共有しながら世帯の状況を把握するよう努めた。また連絡が取れた場合でも、複合的な課題を抱えており即座に解決することが難しい場合や、継続的な支援が必要なケースが多いことから、繋がり続けることを目的とした伴奏型の支援を実施した。

(3) 緊急食料等支給事業

① 生活困窮世帯等に対し食料支援を通じ、事業の周知を行った。

- ・ みえ福祉の「わ」創造事業・・・緊急時物品等支援事業0件、就労活動支援交通費11件、セカンドハーベスト名古屋からの食料支援6件
- ・ 本会独自事業および生活協同組合コープみえ、伊勢農業協同組合からの食料寄付を活用した食料支援73件、フードパントリー19件

② 食料寄付の受付

- ・生活協同組合コープみえより、協定に基づき良品返品の商品(精米・食品など)の無償提供を受けた。
- ・伊勢農業協同組合より、組合員や地域住民に協力を呼びかけ集まった未開封食料の食料寄付を受け付けた。
- ・福祉保健センター1F ロビーに常設型フードドライブを設置し、社協職員や市民への食料品等の提供の呼びかけを行った。



3. 権利擁護事業

(1) 日常生活自立支援事業[おわせ日常生活自立支援センター](受託事業)

① 権利擁護の視点に立った利用者支援の実施

利用者の自己決定を尊重するという権利擁護の視点に立ち、必要な情報の提供や助言をし、本人の意思に寄り添いながら支援を行なった。また、利用者の抱える課題について、関係機関と情報共有し、社会資源の育成につながるよう努めた。

(ア) 相談実績

(単位：件)

		認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	令和5年度
相談		358	304	372	313	1347	1299
契約	新規	5	2	2	2	11	6
	解約	4	1	0	2	7	3
	継続	8	7	8	5	28	24

② 専門員・推進員・生活支援員の資質向上

専門員会議やスキルアップにつながる研修に参加することで、必要な知識や情報を収集し、資質向上に努めた。

③ 成年後見制度への移行支援

既に契約している利用者の成年後見制度への移行支援はなかったが、新規相談の時点で判断能力がすでに低下している方で、成年後見制度移行までのつなぎ支援として契約締結審査会に諮り、契約後、利用者が安心して生活できるよう支援を行なった。

④ 生活支援員の確保

ハローワーク、地方紙、『社協だより』にて生活支援員の募集を行なったところ、2名の応募があり、適性を見て採用に至った。

(2) 後見支援事業

① 尾鷲市成年後見支援センター事業(受託事業)

(ア) 広報業務

ア 成年後見制度利用促進講演会『終活講座～自分らしい人生の仕舞い方～』の開催

目 的：シニア世代の関心が高い「終活」をテーマとして、自分らしく人生を終えるためにどのような準備が必要かを考える機会を市民に提供すること。また終活の手段の一つとしての成年後見制度があり、相談先として成年後見支援センターがあることを周知し、制度の利用促進を図ること。

日 時：令和7年2月16日(日)10時00分から12時00分

場 所：尾鷲市立中央公民館 3階講堂

講 師：ファイナンシャルプランナー 生川奈美子 氏

内 容：終活とそれに関連する制度について

来場者：110名



イ 事業の周知

令和6年5月14日、尾鷲市民生委員児童委員協議会第1回総会において、地域住民の困りごとや心配ごとの相談相手である民生委員児童委員を対象に事業内容を説明し周知を図った。

(イ) 相談業務

ア 相談窓口の設置

・相談員の配置

おわせ生活サポートセンタークローバー、尾鷲市地域包括支援センター、紀北地域障がい者総合相談支援センター結、に相談員計6名(兼務)を配置した。

・相談件数：12件

家庭裁判所や市役所など関係機関と連携し、相談者に成年後見制度の情報提供や助言を行った。なお、専門性が高い事案に関しては、尾鷲市成年後見制度利用促進協議会において事例検討し、適切と思われる申立人や成年後見人等、また今後予測される問題について助言を受けた。

(ウ) 申立支援業務 申立支援件数：1件

親族からの申立相談に対して、申立の流れや書類の書き方を説明した(申立には至らず)。

(エ) 担い手育成業務

三重県下の自治体・司法機関・専門職団体・社会福祉協議会等の関係機関が、今後の成年後見制度に係る連携・協議体制について意見交換を行い、より活発・円滑な連携を図ることを目的とした「成年後見制度利用促進に向けた関係機関会議」や、県域レベルで取り組む必要のある課

題について、県内の社会福祉協議会の意見を集約することを目的とした「三重県権利擁護支援研修・調査企画会議」に参加し、今後の担い手育成について協議・情報収集した。また、尾鷲市成年後見制度利用促進協議会に6回参加し、当地域の現状や今後の見通し、担い手の育成や確保について意見交換した。

② 法人による後見人等受任事業

令和6年度は受任件数の増減は無く、引き続き1件の受任ケースについて以下の後見事務を行った。

- (ア) 審判に基づく被後見人等の支援（身上監護・財産管理）
- (イ) 法人後見運営委員会の開催（令和6年度1回開催）
- (ウ) 内部監査の実施（年1回）
- (エ) 裁判所への定期的な事務報告

Ⅲ 高齢者相談係

地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援

① 総合相談窓口の設置

新規相談件数（集計は初回受付分のみ）

（単位：件）

相談内容	件 数
介護・日常生活に関する相談	456
介護サービスの利用に関する相談	184
医療サービスの利用に関する相談	32
生活費に関する相談	14
各種サービスの苦情に関する相談	5
権利擁護に関する相談	23
その他	31
合 計	745

（前年度新規相談件数：828 件）

② 輪内ランチ（輪内地区相談窓口）の開設（週 1 回）

(2) 権利擁護支援

① 高齢者虐待防止

相談受理件数 3 件（前年度 1 件）

② 権利擁護制度の活用支援

（ア）日常生活自立支援事業の利用援助

相談件数 2 件（前年度 9 件）

（イ）成年後見制度の利用援助

相談件数 8 件（前年度 8 件）

※ アセスメントの結果でニーズが判明することが多いため、上記新規相談件数（初回受付分）とは一致しない。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

① 居宅介護支援事業者連絡会議

ケアマネジャーの後方支援に必要な事項について、居宅介護支援事業所の代表者による連絡会議を開催した。

第1回：令和6年5月14日（火）13：30～15：00（参加：12名）

第2回：令和6年11月21日（木）14：00～15：00（参加：10名）

② 居宅介護支援事業者研修会

ケアマネジャー同士の交流及び学びの機会を目的とした研修会を開催した。

（ア）研修会①

- ◆ 開催日：令和6年10月24日（木）
- ◆ 会 場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール
- ◆ 参加者：23人
- ◆ 内 容：事例を通して見る成年後見制度
- ◆ 講 師：いせ社会福祉士事務所 社会福祉士 森美由紀 氏
中瀬幸志司法書士事務所 司法書士 中瀬幸志 氏

（イ）研修会②

- ◆ 開催日：令和7年2月13日（木）
- ◆ 会 場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール
- ◆ 参加者：21人
- ◆ 内 容：生活困窮者自立支援制度について
- ◆ 講 師：おわせ生活サポートセンタークローバー 与谷和士
大川恵理



（研修会①）



（研修会②）

③ 包括的なケアマネジメント支援

ケアマネジャーのみでは対応困難な支援ケースについて相談に乗り、ケース全体のマネジメント支援を行った。

- ◆ 相談対応件数 70件（前年度100件）

④ 地域ケア個別会議の開催

支援困難ケースについて多職種による個別会議を開催し、問題解決の方針を模索した。

◆ 開催件数 2件：（前年度3件）

⑤ テーマ型地域ケア会議の開催

地域課題が見える事例を持ち寄り、多職種を交えて課題の整理と課題解決に向けた意見交換を行った。

◆ 開催日：令和7年1月24日（金）

◆ 会 場：県立熊野古道センター小ホール

◆ 参加者：30人

◆ 内 容：身寄りがないケースを支援するうえでの問題点

◆ 助言者：片山総合法律事務所 弁護士 小林大輝 氏

(4) 介護予防ケアマネジメント

要支援認定者（介護予防・日常生活支援総合事業対象者を含む）に対して介護予防ケアマネジメントを実施し、要介護化の防止支援を行った。

◆ 月別の利用者数（ケアプラン作成数）（単位：件）

	自機関作成分	委託分	合 計
4 月	204	76	280
5 月	206	61	267
6 月	201	63	264
7 月	194	47	241
8 月	185	48	233
9 月	186	47	233
10 月	188	45	233
11 月	189	44	233
12 月	186	45	231
1 月	186	48	234
2 月	185	51	236
3 月	185	53	238
平 均	191	52	243
合 計	2,296	628	2,924

（前年度合計件数 3,145 件）

(5) 認知症総合支援

① 認知症初期集中支援のしくみづくり

認知症専門医を中心として医療・福祉の連携チームを編成し、医療や福祉サービスにつながっていないケースに対して集中的支援を行うしくみづくりを行った。

- ◆ 認知症に関する相談 49 件（前年度 61 件）
- ◆ 認知症初期集中支援チームによる検討 14 件（前年度 15 件）
- ◆ 認知症初期集中支援チーム会議 12 回（前年度 7 回）
- ◆ 認知症初期集中支援検討委員会 1 回（前年度 1 回）

② 認知症カフェ「こもればカフェ」

認知症に関する学びや相談、つながりづくりを目的とした認知症カフェを開催した。

（単位：人）

回	開催日	催し	参加者
1	5 月 23 日	寸劇「短期記憶障害への対応例」	25
2	7 月 25 日	寸劇「見当識障害への対応例」	26
3	9 月 4 日	丹野智文さんとともに	48
4	11 月 15 日	動画視聴「当事者の思い」	33
5	1 月 24 日	服薬管理について	30
6	3 月 27 日	認知症サポートハンドブックの紹介	25
合 計			187

（前年度：6 回のべ 188 人）



③ 認知症サポーター養成講座

一般住民や企業・学校などを対象として認知症の周知・啓発を目的とした認知症サポーター養成講座を開催した。

（単位：人）

回	開催日	対象者	参加者
1	6 月 25 日	三木里地区住民	25
2	10 月 18 日	紀北信用金庫	15
3	12 月 18 日	家族介護者	7
4	12 月 25 日	家族介護者	4
5	1 月 31 日	尾鷲中学校 2 年生	94

6	3月14日	輪内中学校2年生	6
合 計			151

(前年度：4回のべ60人)

④ 認知症サポーターステップアップ講座

- ◆ 開催日：令和7年1月16日（木）13：30～15：00
- ◆ 会 場：尾鷲市中央公民館1階視聴覚室
- ◆ 参加者：9名
- ◆ 内 容：認知症当事者を中心とした地域づくり
- ◆ 講 師：尾鷲市地域包括支援センター認知症地域支援推進員

⑤ 第3回おわせアルツハイマーデーこもれび

- ◆ 開催日：令和6年9月4日(水)9：00～16：00
- ◆ 会 場：県立熊野古道センター
- ◆ 来場者：92人
- ◆ 内 容：映画「オレンジ・ランプ」上映会、認知症当事者丹野智文氏講演会、認知症カフェ



(6) 家族介護者支援事業

① 介護者交流会

(単位：人)

回	開催日	内 容	参加者
1	6月26日	おしゃべり喫茶	7
2	8月22日	おしゃべり喫茶	7
3	11月27日	食事会	7
4	2月19日	ひのきのコサージュづくり 講師：NPO 法人海虹路 池田比早子 氏	6
合 計			27

(前年度：4回のべ25人)

② 家族介護教室

(ア) 尾鷲会場

- ◆ 開催日：令和6年12月18日（水）13：30～15：00
- ◆ 会 場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール
- ◆ 参加者：7名
- ◆ 内 容：認知症がある方の介護のポイント
- ◆ 講 師：尾鷲市地域包括支援センター 山本雄一

(イ) 輪内会場

- ◆ 開催日：令和6年12月25日（水）13：30～15：00
- ◆ 会 場：三木浦コミュニティセンター
- ◆ 参加者：4名
- ◆ 内 容：認知症がある方の介護のポイント
- ◆ 講 師：尾鷲市地域包括支援センター 山本雄一



（ひのきのコサージュづくり）



（家族介護教室）

Ⅳ 障がい相談係

紀北地域障がい者総合相談支援センター結

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 総合相談支援

令和 6 年度の相談実人数は 238 人であった。支援内容は福祉サービスの利用に関する相談支援が多く、自分の希望する暮らしや意向を実現するために、どのようなサービスがあるのか知りたいという相談が多かった。

本人・家族の高齢化が進む中で、これからの生活について共に考え、これまで利用していなかったサービスについて知り、利用を検討する機会となった。

◇障がい別 年間相談者実数（児・者） (単位：人)

区分	実人数	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳 機能	その他
尾鷲市	127	18	2	62	40	3	0	3
紀北町	111	10	1	63	33	1	0	5
計	238	28	3	125	73	4	0	8

◇支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子 メール	個別支 援会議	関係 機関	その 他	計
尾鷲市	1, 252	696	220	1, 225	2	89	404	87	3, 975
紀北町	1, 174	348	143	1, 191	17	60	315	27	3, 275
計	2, 426	1, 044	363	2, 416	19	149	719	114	7, 250

◇支援内容（延べ件数） (単位：件)

内容	尾鷲市	紀北町	計
福祉サービスの利用に関する支援	1, 877	1, 785	3, 662
障がいや症状の理解に関する支援	261	220	481
健康・医療に関する支援	305	317	622
不安の解消・情緒安定に関する支援	266	218	484
保育・教育に関する支援	40	33	73
家族関係・人間関係に関する支援	262	142	404

家計・経済に関する支援	170	91	261
生活技術に関する支援	149	65	214
就労に関する支援	124	67	191
社会参加・余暇活動に関する支援	342	275	617
権利擁護に関する支援	8	1	9
その他	171	61	232
計	3, 975	3, 275	7, 250

（２）権利擁護のための必要な援助

市町委託の基幹型相談支援センターのすべての職員が虐待防止に関する意識を持ち、障がい者の個性や人格を尊重し、権利を擁護できるよう活動を行った。尾鷲市成年後見制度中核機関の活動支援としては、「終活講座～自分らしい人生の仕舞い方～」と題した講演会を開催し、広報機能・相談機能等の活動を行った。また、誰もが住みやすいまちづくりや、障がい者への理解を深めてもらう為に、市内小・中学生を対象に福祉授業を実施した。



（成年後見講演会 終活講座）



（中学校 福祉授業）



（小学校 福祉授業）

（３）地域における相談支援体制強化と人材育成

相談支援専門員の初任者・現任者研修受講者の地域実習を行い、支援者の育成に努めた。新たに特定相談支援事業所の開設を検討している法人職員の同行研修も実施した。また、ケース支援の方向性について相談を受けた方に対しては、基幹型支援センターの職員が訪問や面談に同行し、相談支援専門員に対しての支援を行った。

相談支援専門員初任者研修 受講生 1 名 2 日間実習

相談支援専門員現任者研修 受講生 4 名 2 日間実習

（４）紀北地域協議会の運営支援

地域生活支援拠点部会、こころ部会、就労部会の３部会で構成し開催。また、今年度も避難訓練に取り組み、防災意識を忘れないよう取り組みを行った。

令和6年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取 組 内 容
地域生活支援拠点	テーマ：「紀北地域における地域生活支援拠点の整備に向けて」 住みなれた地域で長く暮らしていくにはという視点で、3件の事例をもとにケースの支援・経過を共有し、今後の生活の見立てを行った。また、拠点整備に向けて地域の課題や社会資源についても意見を出し合い情報共有を図った。
こころ部会	テーマ：「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて」 事例を通して施設入所者や精神科病院入院中の方の地域移行についての話し合いを行った。精神科入院中の方には、入院中から退院への意欲の向上に向けた働きかけが必要であるという意見が挙げられた。また、地域資源が不足しているため、住み慣れた地域へ戻って暮らすには、希望する支援が受けられない状況であることも課題として挙げた。
就労部会	テーマ：「福祉的就労の場の確保、就労サポート・定着支援、多様な就労形態の創出について」 ●障害福祉サービス事業所対象の研修 令和7年1月に『就労系サービスにおける意思決定支援』と題して研修会を開催した。近隣圏域である大紀町や紀南地域の事業所にも声をかけ、11事業所から19名の方が参加された。 ●事例紹介（清掃管理サービス） B型作業所においては、コロナ禍明け以降も、自社製品の売り上げの減少、委託作業の減少などにより、日々の作業量の確保等に苦労している。福祉分野以外の様々な分野との連携が求められており、事例として南島原市社協の墓地清掃管理サービスを紹介した。 ●就労選択支援事業 令和7年10月から始まる就労選択支援事業について、情報提供を行った。
避難訓練	第1回：令和6年9月21日（土）尾鷲市開催 参加者10名 防災バックの確認、防災ゲーム、防災かるた、防災絵本での学習。 第2回：令和7年2月13日（木）紀北町開催 参加者5名 地震・津波発生を想定して、引本公園への避難を実施。



(5) ピアサポーター活動支援

地域での生活をより豊かなものとするために、社会との接点や様々な体験の機会を持てるよう「共通の経験と関心をもつ仲間同士の相互支援」を基本とするピア活動支援に取り組んだ。尾鷲市と紀北町で、月2回行う「すずらんサロン（日中の居場所作り）」の活動を行った。延べ人数で尾鷲市48人、紀北町33人、合計で81人の参加があった。また、尾鷲市身体障がい者互助会の活動支援については、尾鷲市ふれあいスポレク祭の主催として活動し、会員数が少ない現状であるが、外出活動・食事会を開催し、会員同士の交流を深める活動を行った。その他、会員宅を訪問し、健康を確認する訪問活動も継続した。



(すずらんサロン)



(身体障がい者互助会新年会)

2. 障害者就業・生活支援センター事業及び障がい者就業・生活支援事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業と三重県の障がい者就業・生活支援事業では、人口減少に比例して新規登録者、ハローワークの障がい者求人も減少傾向であるが、就職件数と職場実習の目標件数は達成する事が出来た。

普通高校在校生への就労支援として、卒業年度の学生の個別懇談会や支援者間のケース会議に参加し情報共有を行った。卒業後の進路に向けて本人・家族と企業の見学、ハローワークへの同行、職業センターの職業評価、福祉サービス事業所の見学等の支援に関わった。

① 就労登録者数

(単位：人)

登録者数	身体	知的	精神	その他 (難病)	計
新規	0	2	6	1	9
継続	34	81	74	8	197
合計	34	83	80	9	206

② 就労実績

(単位：人)

障がい種別 1週間の 勤務時間数	身体	知的	精神	その他	計
一般（30時間以上）	0	2	3	0	5
20時間以上 30時間未満	0	0	3	0	3
20時間未満	0	0	2	0	2
計	0	2	8	0	10

③ 市町別就労実績

(単位：人)

区分		(内訳)				計
		身体	知的	精神	その他	
内 訳	尾鷲市	0	1	6	0	7
	紀北町	0	1	2	0	3
圏域合計		0	2	8	0	10

④ 相談支援件数（内容別）

(単位：件)

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	43	271	262	8	584
職場定着の為に相談支援	12	198	217	0	427
日常生活に関する相談支援	123	458	156	2	739
就業と生活に関する相談支援	1	27	12	2	42
計	179	954	647	12	1,792

⑤ 相談支援件数（手段別）

(単位：件)

内 容	身体	知的	精神	その他	計
来所	25	175	138	2	340
オンライン・電話・電子メール等	97	425	295	9	826
職場訪問 （定着支援、職場実習支援を含む）	11	148	123	0	282
家庭・利用施設への訪問	22	28	13	0	63
その他（ハローワーク・医療機関への 同行、年金事務所への同行等）	24	178	78	1	281
計	179	954	647	12	1,792

◇在職者交流会・ピアサポート活動 研修会 (単位：人)

開催日	内容	参加人数
令和6年7月13日	在職者交流会 「熱中症予防」	11
令和6年11月6日	ピアサポート活動 「生活習慣の改善」	11
令和7年3月1日	在職者交流会 「生活習慣病予防講義・調理実習」	9



(熱中症予防)



(ピアサポート活動)



(生活習慣病予防・調理実習)

◇地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

(単位：人)

開催日	内容	参加人数
令和6年11月28日	研修会 「お薬の話～精神科領域とオーバードーズ問題」	26
令和6年12月23日	福祉事務所説明会 「支援センター結の実践の紹介～精神疾患を持つ方への理解・良好な支援関係の構築」	12
令和7年1月15日	研修会 「就労系サービスにおける意思決定支援」	19
令和7年3月12日	セミナー 「障害者の雇用に関する就労支援セミナー」	5

3. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) 生活訓練事業

視覚障がい者の方に対して、歩行訓練や福祉機器・点字の指導を行う。

開催 12 回 視覚障がい者 2 人 延べ参加人数 21 人

(2) フラワーアレンジメント教室

趣味余暇活動支援として尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 池田比早子氏

開催 12 回 延べ参加人数 159 人

(3) 点字・声の広報発行事業

視覚障がい者の方に対して、音訳ボランティアによる広報おわせ録音・発送。

実施 12 回 視覚障がい者 3 人 延べ配布人数 36 人

(4) 音楽教室

楽器を鳴らす、歌を歌う等の音楽を介し自己を表現する。講師 福田朝子氏

開催 12 回 延べ参加人数 41 人（尾鷲市 13 人 紀北町 28 人）

(5) 尾鷲市ふれあいスポレク祭

令和 6 年 10 月 16 日（土）開催

障がい者 55 人 ボランティア 8 団体 41 人

福祉協力校 6 校 38 人 その他 62 人 合計 196 人

(6) その他

紀北町ふれあいスポーツ大会、紀北町障がい者生活交流会参加。



（音楽教室）



（フラワーアレンジメント教室）

4. 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成・モニタリングを行った。相談支援専門員の不足から、計画作成の依頼をすぐに受けることができないケースが出て来ているため、相談支援専門員の確保が現在の課題である。

利用計画・継続支援 作成件数 (単位：件)		
	利用計画	継続支援
尾鷲市	104	162
紀北町	89	156
圏域外	7	23
計	200	341

5. 各種関係機関との連携・会議等

三重県基幹型相談支援センター連絡会議

東紀州くろしお学園おわせ分校移行支援会議

三重県南部医療的ケア地域支援連絡会議（みえる輪ネット）

三重県相談支援体制会議

尾鷲市成年後見制度利用促進協議会

尾鷲市要保護児童対策協議会実務者会議

紀北地域精神担当者情報共有会議

尾鷲地域精神保健福祉危機対応ネットワーク連絡会

紀北町障がい者福祉団体連合会

ひきこもり当事者家族カフェ（こもりカフェ）

東紀州地域依存症ネットワーク会議

三重労働局障害者就業・生活支援センター連絡会議

三重障害者職業センター障害者雇用支援連絡協議会

三重県障がい者就業・生活支援事業連絡会議

三重県教育委員会高校生就労支援ネットワーク会議

三重県障害者就業・生活支援センター連絡協議会みえーる

V 居宅介護支援係

居宅介護支援事業所

介護保険の理念に基づき、要支援、要介護状態にある利用者の意思を尊重し、住み慣れたご自宅などでできるだけ自立したその人らしい生活を営むことができるよう医療・福祉の関係機関と連携し、総合的に支援を行った。

1. 職員体制

主任介護支援専門員 4 名 ※ 9 月～ 3 名 介護支援専門員 1 名

2. 業務内容

1. 利用者、家族の在宅生活、在宅介護の支援

利用者、家族の心身の状況や、おかれている環境に応じてニーズを把握し、自立した日常生活を送ることができるよう、最善のケアプランの提案に努めた。

2. 居宅サービス計画の作成

在宅生活について、利用者及びご家族の意向を尊重し、望む生活に近づけるようケアプランを提案し作成した。医療との連携について、退院時には医師、病院関係者とのカンファレンスに参加し、円滑に在宅生活に復帰できるように支援した。

また、利用者の立場に立ち、提供されるサービスが特定の種類やサービス事業所に偏ることのないよう公平中立の立場を保ち支援を行った。

(1) 新規利用者の確保

(単位：人)

	令和 6 年度	令和 5 年度
居宅新規	41	52
居宅終了	43	45
※内訳 (死亡)	12	12
(入所・入院)	25	21
(移動)	5	1
(改善)	0	3
(転居)	1	0
(支援に移行)	0	8
予防給付 新規	4	1

新規利用者の確保は、要介護者 11 名の減少となる。終了については、死亡や介護度の重度の方の施設入所など、在宅での介護力の不足が原因の一つと推測される。少子高齢化、人口減少の影響もあり、全体的には居宅介護支援の件数は減少傾向となっている。

【利用者増減の状況表】

(単位:人・%)

構成 (介護度別)	令和6年度・実績		令和5年度・実績		備考
	人数	割合	人数	割合	
要支援・総合	178	10.0 %	101	5.9 %	増加傾向
要介護 1・2	1171	65.7 %	1301	74.4 %	減少傾向
要介護 3～5	433	24.3 %	345	19.7 %	増加傾向
計	1782	100.0 %	1747	100.0 %	

すでに計画を作成しているものの、不定期の利用や、入院や入所により中断、医療と連携調整後に繋がらなければ実績とならないケースも 1 割程度あり、制度上の課題かと思われる。

(2) 月別請求額

◇居宅介護支援費

(単位:人・円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用人数	143	137	139	137	140	136
収入額	2,307,410	2,220,850	2,247,980	2,211,090	2,264,050	2,170,270

1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
134	138	137	122	118	119	1,600
2,153,880	2,211,160	2,198,340	1,942,540	1,879,260	1,902,080	25,708,910

(前年度) 利用者人数 1,662 人 収入額 25,840 千円

◇予防居宅介護支援費

(単位:人・円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用人数	0	0	0	11	13	10
収入額	0	0	0	84,920	64,360	47,200

1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計
11	9	9	12	12	12	99
51,920	42,480	42,480	62,640	56,640	59,640	512,280

(前年度) 利用者人数 0 人 収入額 0 円

【尾鷲市包括支援センター委託分】

◇介護予防支援費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	12	11	12	0	1	0
収入額	69,540	48,620	58,540	0	4,420	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	36
0	0	0	0	0	0	181,120

(前年度) 利用者人数 55人 収入額 279千円

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	4	4	3	3	3	5
収入額	17,680	17,680	13,260	13,260	18,760	27,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	5	4	3	4	3	46
22,100	22,100	17,680	13,260	17,680	13,260	214,320

(前年度) 利用者人数 47人 収入額 211千円

3. サービス提供機関との連携

各サービス事業所への訪問や、電話や書面による連携を図り、利用者の情報共有に努めた。また、病院と地域の連携を目指した研修に参加し、グループワークで多職種の参加者と交流を深めた。

4. 介護支援専門員実務研修実習生受け入れ事業

令和6年度ケアマネ試験合格者を受け入れた。(1件)

5. 相談支援対応

ご家族、地域包括支援センター、市外病院からの相談を受け付け必要な支援に繋げた。(12件)

6. ケアマネジメントの質の向上を図る

1. 居宅事務所内でのミーティングを実施

サービス提供にあたっての留意事項、困難事例ケース検討会、保健医療及び福祉に関する諸制度、地域における事業者や活用できる社会資源の共有など、週1回程度行った。

2. 居宅介護支援連絡会・各種研修への参加

介護支援専門員としての意識向上、援助技術のスキルアップを図った。

Ⅵ 介護サービス係

訪問介護事業所

「ずっとうちで暮らしたいを応援」を合言葉に支援を行った。

1. 訪問介護・総合事業訪問型サービス(介護保険)

支援が必要な方を対象に、訪問介護員が自宅を訪問し、身体介護や生活援助のサービスを提供した。利用者数等については、障がいサービスから移行してこられた方もあり、堅調に推移している。要介護者と要支援者の割合は7：3となっている。また、要介護者における生活援助と身体介護等の割合は4：6となっている。

サービス内容

- 身体介護：食事介助、通院介助、入浴介助、排泄介助、体位変換
その他の身体介護
- 生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ
- 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	66	64	70	72	69	69
収入額	2,622,700	2,787,290	2,421,740	2,901,190	2,657,950	2,564,010

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
68	75	71	67	59	64	814
2,574,740	2,893,720	2,819,380	2,536,080	2,386,550	2,539,180	31,704,530

(前年度) 利用者人数 817 人 収入額 29,643 千円

◇総合事業訪問型サービス月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	32	33	33	32	28	27
収入額	484,510	454,520	439,710	463,830	349,000	369,610

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
29	27	29	28	28	24	350
405,280	346,850	361,680	334,520	314,960	286,900	4,611,370

(前年度) 利用者人数 372 人 収入額 4,565 千円

2. 障害者総合支援事業

障害者総合支援法に基づき、居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各障害福祉サービスを提供した。施設入所や65歳となった利用者が介護保険サービスに移行したことから減収となった。

◇月別単位数（実績月）

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	27	28	27	28	21	25
収入額	1,132,200	991,980	967,870	1,097,760	803,830	955,800

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
27	25	26	24	26	25	309
986,590	915,020	863,400	805,200	813,950	871,510	11,205,110

（前年度） 利用者人数 371 人 収入額 15,611 千円

3. 生活支援サービス「あんしん」と一般乗用旅客自動車運送事業

生活支援サービス「あんしん」を自主事業として行った。また、車輛を使用した支援を、一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	13	8	7	10	6	4
収入額	28,800	14,400	17,600	16,600	17,600	8,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6	6	7	7	10	6	90
13,600	11,200	16,500	14,800	17,000	12,800	188,900

（前年度） 利用者人数 121 人 収入額 384 千円

◇運行利用料月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	65	59	58	60	53	54
収入額	150,700	135,730	136,140	146,180	129,600	108,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
59	57	57	52	49	50	673
134,100	127,500	118,450	96,250	81,800	96,000	1,461,050

（前年度） 利用者人数 700 人 収入額 1,519 千円

4. 子育て世帯訪問支援事業

尾鷲市から委託を受け、家事や子育て等に不安や負担を抱えている世帯に対し、家事支援、不安や悩みの傾聴、相談並びに助言、情報提供などを行った。

登録世帯 1 世帯 延べ訪問回数 3 回（初回利用 令和 7 年 3 月）

5. 人材育成に関する取り組み

（１）資格・研修

- | | |
|---------------------|-----|
| ①同行援護従業者養成研修 | 1 名 |
| 福祉有償運送運転者及びセダン等運転講習 | 2 名 |

②研修

法令順守、ハラスメント・虐待（身体拘束含む）
非常災害・感染症に関する研修



（２）定例会議及びチーム会議

定例会議では、各チームで抱えている困難ケースについて、検討や対応方法の協議等を行った。また、事業所全体で取り組むべき課題の洗い出しや検討を行い、事業所運営に活かした。

チーム会議では、各利用者の情報共有を行うとともに、研修や訓練を実施した。

訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴（介護保険）

紀北地域唯一の訪問入浴事業所として、看護職員、介護職員、運転手がチームとなり、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。

入院やショートステイ利用などで短期間での利用や一人あたりの利用回数が少なかったものの、継続的に新規利用の申し込みがあったことにより堅調に推移している。

（１）サービス内容

- ① 看護職員による健康チェック
- ② 衣服の着脱介助
- ③ 浴槽への安全な移動介助
- ④ 入浴介助
- ⑤ 在宅介護相談



（２）事業効果

住環境や本人の身体状況により、自宅の浴槽で入浴することが困難な方に対し、浴槽を持ち込みチームで対応することで、清潔の保持、血行促進、新陳代謝の上昇、リラックス効果など生活の質を向上することができた。

◇訪問入浴介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	17	16	17	16	16	16
収 入 額	737,230	911,030	914,870	887,900	900,190	781,570

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	17	16	17	12	11	188
841,570	745,880	668,210	683,120	553,240	552,560	9,177,370

（前年度） 利用者人数 157人 収入額 8,359千円

尾鷲社協デイサービスセンターいきいき

1. 地域密着型通所介護・総合事業

利用者が可能な限り、住み慣れた自宅でその人らしい自立生活を営むことが出来るよう利用者、家族の意向を尊重しながら楽しく通所することで、心身機能の維持・運動機能の向上を目的に提供した。利用回数の多い要介護利用者が施設入所等で利用終了になった後も、新規利用が増えなかったことで減収となった。

(1) サービス内容

- ① 送迎サービス・バイタルチェック
 - ② 脳トレ（映像を使用したトンチ問題や虫食い問題）、懐かしい映像を使った回想法
 - ③ 呼吸体操・集団体操・口腔体操・レクリエーション
（呼吸体操・ストレッチ・タオル体操・ボール運動・セラバンド運動・有酸素運動・重心移動運動・脳トレ交えた手遊び等）
 - ④ 身体の介助・支援（移動介助・見守りなど）
 - ⑤ 日常生活の相談・助言
 - ⑥ 入浴サービス
 - ⑦ 足浴サービス
 - ⑧ 個別運動器機能向上サービス
（作業療法士による運動メニュー作成）
- ※⑥ ⑦ ⑧に関しては選択的サービス



（避難訓練の様子）

◇地域密着型通所介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	17	17	17	20	19	18
収入額	497,940	520,990	508,970	643,410	504,270	538,900

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18	17	16	17	15	16	207
590,490	441,480	423,820	463,360	390,700	448,630	5,942,960

（前年度） 利用者人数 202人 収入額 6,031千円

◇総合事業 月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	8	7	7	6	5	7
収入額	187,290	164,450	195,010	155,900	116,790	195,010

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7	7	7	7	7	7	82
214,700	234,390	234,390	214,700	214,700	214,700	2,342,030

(前年度) 利用者人数 95人 収入額 2,395千円

2. 一般介護予防事業（受託事業）

(1) 一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受け、市内在住の65才以上の方を対象とした6カ月単位の介護予防教室を開催した。

(単位：回・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催回数	8	8	8	8	6	8
収入額	200,000	200,000	200,000	200,000	150,000	200,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	8	8	8	8	7	93
200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	175,000	2,325,000

(前年度) 実施回数 73回 収入額 1,825千円

3. その他

(1) 地域密着型運営推進会議

令和7年3月26日 参加者5名

(2) 消火訓練・避難訓練の実施

デイサービスの実施中に非常災害が発生したことを想定し、年2回の避難訓練を実施した。災害時においても利用者の安全確保を出来るか検証した。訓練後に課題となった車いすの介護技術について、職員研修を実施してスキルアップに努めた。

Ⅶ 輪内高齢者サービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉事業の向上を図るため、次のような事業を行った。

① 募金事業の窓口として事業を実施

5月 日赤募金 10月 共同募金

② 社協相談窓口業務として地域住民の方から相談を受け、市や介護保険関係事業所との連携を図った。

2. 輪内地区食の自立支援事業（委託事業）

尾鷲市から食の自立支援事業の委託を受け、利用者の健康維持促進並びに栄養面からの食生活管理及び安否確認を目的に、65歳以上の単身世帯又は高齢者のみの世帯で調理が困難な方を対象に、週3回（火、木、土）、季節感を取り入れるなど献立に留意し、各家庭に配食を実施した。

対象地区	輪内地域 (梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	38名
延べ配食数	3,610食
事業費	2,382,600円
(うち市補助分)	(938,600円)

地区別登録者内訳

(梶賀3、曾根7、賀田8、古江8、三木里4、三木浦8)

3. 輪内地区あったか弁当事業（自主事業）

尾鷲市の食の自立支援事業の対象外となる65歳未満の方が同居している世帯の高齢者の方を対象に、自主事業として年間154食の配食サービスを実施し、調理が困難な方の負担軽減に努めた。

4. 地域密着型通所介護 介護予防・日常生活支援総合事業 障がい者通所介護

利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、孤立感の解消や心身機能の維持、家族介護の負担軽減などを目的として、要支援・要介護・障がい者の方を対象に、日常生活上のお世話や機能訓練、社会とのつながりを持つ意欲を高めるためのレクリエーションへの参加促進など通所介護を実施した。

《サービス内容》

- ① 送迎サービス
- ② 生活指導（健康チェック、音楽鑑賞、
レクリエーション、創作活動）
- ③ 入浴サービス（機械浴、一人浴、一般浴）
- ④ 食事の提供



（月別実績）

【地域密着型通所介護】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
請求件数	29	25	25	25	26	26
収入額	1, 612, 476	1, 723, 464	1, 497, 564	1, 672, 146	1, 440, 270	1, 586, 232

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
28	29	30	28	26	26	323
1, 689, 741	1, 831, 754	1, 766, 083	1, 595, 416	1, 646, 399	1, 732, 395	19, 793, 940

【介護予防・日常生活支援総合事業】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
請求件数	5	5	4	4	4	4
収入額	158, 841	158, 841	124, 713	124, 713	124, 713	124, 713

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
4	4	5	5	6	6	56
124, 713	124, 713	159, 921	160, 380	188, 145	156, 411	1, 730, 817

【障がい通所介護】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
請求件数	2	2	2	2	2	2
収入額	58,840	58,840	74,360	59,500	74,360	59,500

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2	2	2	2	2	2	24
44,620	74,360	59,500	59,500	59,500	74,360	757,240

(前年度)	実人数	収入額
地域密着型通所介護	296 名	18,968 千円
介護予防通所介護	65 名	1,872 千円
障がい者通所介護	24 名	768 千円

5. 一般介護予防事業（委託事業）

尾鷲市の一般介護予防事業の委託を受け、65 歳以上の高齢者を対象として、介護が必要な状態にならないよう、介護予防に関する知識の普及・啓発を行ない、運動機能の向上、閉じこもりや認知症の予防事業を週 3 回、年間 129 回実施した。

(月別請求額)

【一般介護予防事業】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
開催回数	12	12	12	12	8	11
実人数	13	10	11	11	11	11
収入額	300,000	300,000	300,000	300,000	200,000	275,000

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
12	11	8	11	10	10	129
10	9	8	7	7	6	114
300,000	275,000	200,000	275,000	250,000	250,000	3,225,000

(前年度)	開催数	151 回
	実人数	148 回
	収入額	3,775 千円

6. その他

(1)地域密着型運営推進会議

- ・ 令和 6 年 5 月 24 日：参加者 5 名
- ・ 令和 6 年 11 月 27 日：参加者 5 名

(2)消火避難訓練、津波避難訓練

災害が発生した際に利用者の安全を確保するため、年 2 回避難訓練を実施し、迅速かつ円滑に避難できるよう冷静に判断した上で、行動に移せるか確認を行った。